

～議論の中で出たアイデアや説明をデータに直接記入～

実際に使っているお客様に直撃インタビューしました

神奈川県立神奈川工科大学様

■導入先

■お客様会社名称

神奈川県立神奈川工科大学 情報学部 情報工学科様

■お客様の業種

文教

■お客様の主な業務内容

授業、研究

■導入商品

■機器構成

D5500 × 1台

■ご導入拠点

木村教授研究室

■導入形態

新規導入



導入の背景

講義中にホワイトボードがいっぱいになり、議論が中断してしまう。またホワイトボードに記載した内容をメモに転記しないと消せないため、不便に感じていました。
また、ホワイトボードに必要事項を記入したあと、内容をそのまま不要になるまで置いておくか、メモに転記していました。

導入前の課題

ホワイトボードへの書込みがいっぱいになった後、消す前の転記に時間がかかり、会議・授業が一時中断してしまう上、転記ミスで正確に情報が保存出来なくなる点を改善したいと考えていました。

IWBをこのように利用しています

講義中に思い浮かんだアイデアをその場で教授が書込みながら学生に共有したり、学生からの質問をデータに補足を入れながら説明しています。前のページを消さずに残して新規ページが作成できるので、いつでも前の書込み内容を振り返りながら授業・議論を進められるようになりました。

学生たちは毎日利用しており、課題の報告・共有をする時や、論文のアイデアを書き出したりするブレインストーミングを実施する際にも役立っています。

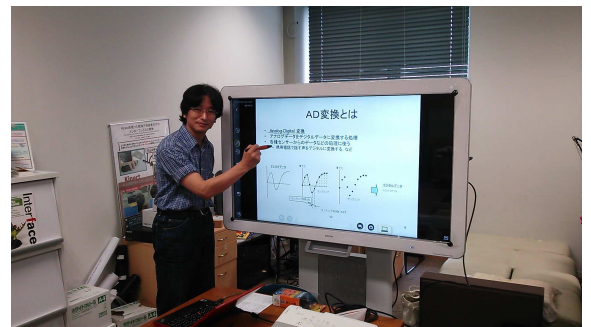
導入後の効果

ホワイトボードの書込みスペースを気にせずどんどんアイデアや意見を記録できるようになり、毎回ボードを消す前に必要だった転記する時間も必要なくなりました。また、転記ミスも無くなり正確に情報を保存出来るようになりました。
色を使い分けながら書き込んで説明すると、言葉で伝わり難い点も視覚的に分かりやすく伝える事が出来るようになりました。
その他にも、先生のスケジュール共有用の掲示版として利用しており、突発的な予定も、その場で書き込みして共有できるようになりました。

お客様の声・今後の展望

【映す】と【書く】を同時に実施できるようになり、質問に対する回答や分かりにくい箇所の説明を視覚的に分かりやすく説明する事が可能となりました。内容をそのまま保存できるので、意見やアイデアをいつでも共有出来る様になりました。
今後は、保存したファイル名を本体から直接変更できたり、ファイルの上書き保存が出来るようになることより便利になると思います。

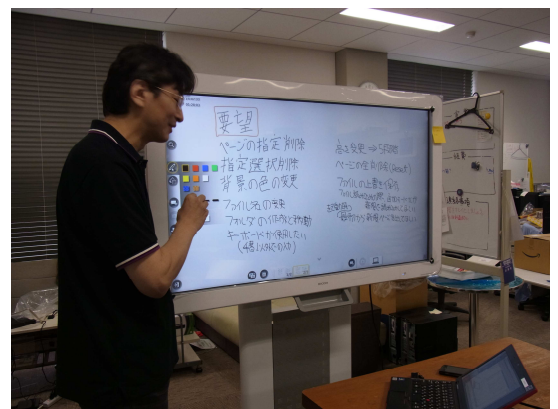
今後はオープンキャンパスや学園祭などの、学校外の方への情報発信の場でも活用していきたいです。



共有したいデータへ説明を追記



授業での利用風景



ペンの色・太さを変えて重要箇所を強調